

## 活動報告

## トークイベント

# 「文化から捉える手話： 映画『ヴァンサンへの手紙』を通して」

講師：牧原 依里（聾の鳥プロダクション）／ 亀井 伸孝（愛知県立大学外国語学部国際関係学科教授）

日時：2018年12月8日（土）16:00 - 17:00

場所：愛知県立大学サテライトキャンパス（愛知県産業労働センター「ウインクあいち」15階）

主催：聾の鳥プロダクション・愛知県立大学多文化共生研究所

情報支援：名古屋難聴者・中途失聴者支援協会

使用言語：日本手話、日本語（双方向の通訳および書記日本語の情報支援あり）

参加人数：約60人

フランスのドキュメンタリー映画『ヴァンサンへの手紙』の紹介活動を全国各地で行っている「聾の鳥プロダクション」の代表であり、映画作家でもある牧原依里さんと、本研究所の亀井所員が、フランスを中心とする世界の手話とろう者の文化に関するトークイベントを実施した。ちょうど同作品が名古屋で公開される時期に合わせた企画であった。牧原さんは日本手話で、亀井所員は日本手話および音声日本語で話し、双方の間の手話通訳を用意した。また、情報保障の一環として、音声認識アプリUDトークによる書記日本語の情報支援を行った（スクリーンに映写、写真右奥）。教養科目「多文化社会とコミュニケーション」の受講学生の一部のほか、多くの一般市民の参加があった。とりわけ、

ろう者・難聴者の参加者数が多かったことが特筆に値する（全参加者の約3分の1を占めた）。

牧原さんは、映画の概説を行い、また、亀井所員はフランスおよび世界のフランス語圏（とくにカナダ・ケベック州とフランス語圏西アフリカ諸国）における手話の伝播と変容に関する歴史の概説を行った。その後、2人で日本手話による対談形式のトークを行い、日本のみならず諸外国の手話の歴史と文化から学ぶことの重要性を共有する機会とした。

ろう者、難聴者、聴者の多くの来場者から、内容が充実していたとの感想や、時間が足りなかったのもっと聞きたかったとの要望などが寄せられた。（文責：亀井伸孝）

